

石川県中能登町

国 指 定 史 跡

せき

どう

さん

能 登 石 動

よみがえる歴史の山



中能登町

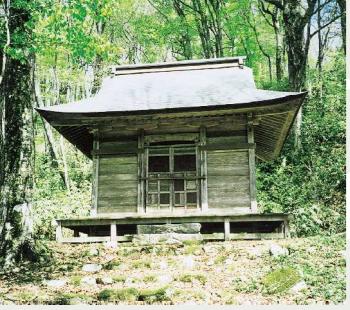
③ 御廟山（ごびょうやま）

東林院跡向いの高台は御廟山（ごびょうやま）と呼ばれ、頂上には、開山智徳上人（ちとくしょうにん）の供養塔や加賀藩初代藩主前田利家をはじめとする歴代藩主の墓所があります。智徳上人は、奈良時代に石動山を開いた開山と伝えられる。供養塔は、元禄7年（1694）に法印祐遍（ほういんゆうへん）が願主となって建立したものです。祐遍は、石動山合戦で衰退した同山の復興に活躍し、石動山中興の祖としてあがめられました。



④ 行者堂（ぎょうじやどう）

修驗道の開祖「役行者（えんのぎょうじや）」を祀ったお堂。役行者は、大和國葛城山で、藤の皮を着て花の汁をすいながら、30年にわたって修行し、鬼神を使役する力、空を飛行する力を体得したとされる修驗者です。建物は、明治7年に最勝講村（さいすこむら）が19円で買い取り、鎮守の天神社拝殿として守り伝えてきました。昭和63年に拝殿の改築を機に解体し、翌平成元年に石動山の元の位置に移築、復元されました。



⑤ 伊須流岐比古神社拝殿

もと神輿堂もしくは權現堂とよばれ、元禄14年（1701）に建立され、五社權現の5つの神輿が安置されていました。その背後には、明治の初め石動山山頂の大御前にあった本社（大宮・白山宮）を移築した本殿があります。大宮（おみや）、白山宮（はくさんぐう）、梅宮（うめのみや）、火宮（ひのみや）、剣宮（つるぎのみや）に祀られていた五社權現を合祀したもので、本殿は承応2年（1653）、前田利常の寄進で建立されたもので、大工は加賀藩の宮大工黒田太右衛門尉藤原正重（くろだたうえもんのじょうふじわらまさしげ）です。本殿と拝殿はともに石川県文化財に指定されています。同神社には利家をはじめ歴代藩主が石動山に宛てた古文書が残されており現在、石動山資料館に保管されています。



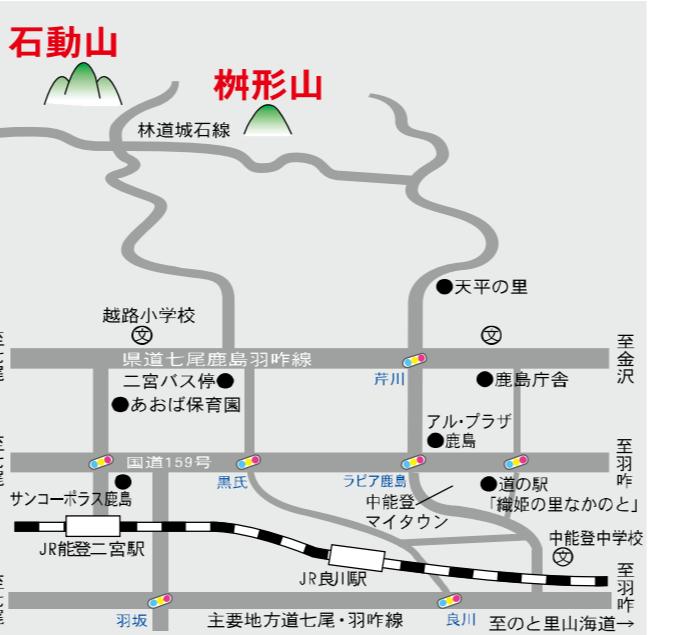
⑥ 五重塔跡（ごじゅうとうあと）

昭和52年、発掘調査によって発見されました。天正10年（1582）の石動山合戦で焼失したのち再建されず、地中に埋もれたままでした。礎石に生々しい焼痕が見られるほか、周辺から焼けただれた木材、灰などが出土し、兵火のすさまじさを物語る。石動山の本山であった京都の勧修寺（かじゅうじ）の文書には、応永23年（1416）に同寺別当職の慈尊院実順（じそんいんじつじゅん）が導師を勤めて塔供養が行われたとあります。



⑦ 石動山城跡（せきどうさんじょうあと）

石動山城は、中世の山城で、大御前からの峰続きの高台に七尾城と対峙する標高約520mの位置に築かれている。南眼下には、石動山堂塔・院坊群が連なる山内全域が、さらに、その後方に立山連峰を雲上にいただく富山湾沿岸域が望めます。一旦ことあれば、石動山城に立て籠もり、槍や長刀をもって戦う僧兵、石動山衆徒の姿が目に浮かびます。天正4年（1577）、上杉謙信（うえすぎけんしん）は能登を手中に收めるため、七尾城の攻略を進めますが、その背後を押さえる目的で配下の石動山に同城を築き、直江大和守景綱らを守将として配しました。謙信が七尾城攻めの際ここで陣どりました。



●道の駅「織姫の里なかのと」から……車で約20分

石動山資料館・大宮坊 利用案内

●開館時間
9:00~17:00

●休館日

毎週火曜日
(火曜日祭日の場合は翌日)
12月1日~3月20日(冬期休館)

●入館料

石動山資料館（有料）
個人 大人 200円
小人 100円
団体（20名以上）
大人 160円
大宮坊（無料）

●問い合わせ先

中能登町教育文化課

〒929-1721 石川県鹿島郡中能登町井田に部50番地

TEL.0767-76-2808

ホームページアドレス <http://www.town.nakanoto.ishikawa.jp>

Email bunkazai@town.nakanoto.lg.jp

平成26年10月発行



石動山散策マップ

